

令和元年 7 月 吉日

JASV 会員各位

一般社団法人 日本養豚開業獣医師協会
代表理事 呉 克昌

豚病講習会(動物衛生研究部門)開催のお知らせ

拝啓 平素は JASV の活動に対しご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて JASV では、農研機構 動物衛生研究部門のご協力を得て、下記の要領で第 10 回豚病講習会を開催いたします。動物衛生研究部門の先生方の最新の研究成果、今後の研究動向などを、直に学ぶことができる貴重な機会となると思います。積極的なご参加をお待ちしております。

敬具

記

●豚病講習会 (農研機構 動物衛生研究部門)

- ・日 時 令和元年 8 月 23 日 (金) 13 時 00 分～15 時 50 分
- ・場 所 農研機構 動物衛生研究部門 講堂 (正門入って右側の建物)
〒305-0856 茨城県つくば市観音台 3-1-5
- ・参加費用 無 料 ※今回は午後開催のためお弁当はありません
- ・定員 50 名 ※定員になり次第締め切らせていただきます

<農研機構 動物衛生研究部門 アクセス>

JR 常磐線利用の場合

- ・牛久駅下車、西口駅前バス停。 関東鉄道バス「谷田部車庫」「生物研大わしキャンパス」「筑波大学病院」行きに乗車、「動物衛生研究所」下車、徒歩 3 分。所要時間約 20 分。

つくばエクスプレス利用の場合

- ・みどりの駅下車、西出口バス停。 関東鉄道バス「農林団地循環」行きに乗車、「動物衛生研究所」下車、徒歩 3 分。所要時間約 20 分。
- ・つくば駅下車、A3・A4 出口。 つくばセンター2 番のりばから、つくバス南部シャトル「荃崎窓口センター」「荃崎老人福祉センター」行きに乗車、「農林団地中央」下車、徒歩 8 分。所要時間約 25 分。

《豚病講習会プログラム》プログラムの内容、順番は変更の可能性がありますのでご了承ください

| 時間 | 担当者（敬称略） | 演題 |
|-------------|----------|---|
| 13：00-13：10 | | 呉代表理事、筒井部門長挨拶 |
| 13：10-13：50 | 小林 創太 他 | 養豚場における薬剤耐性状況の実態解明 |
| 13：50-14：30 | 山根 逸郎 | 養豚農場を対象としたベンチマーキングシステム（PigINFO シリーズ）の紹介 |
| 14：30-14：50 | | 休憩 |
| 14：50-15：30 | 内田 裕子 | 国内の豚インフルエンザウイルスの現状 |
| 15：30-15：50 | 宮崎 綾子 | 病気に強い養豚の実現を目指した研究への取り組み |

1. 養豚場における薬剤耐性状況の実態解明

細菌・寄生虫研究領域 小林創太 玉村雪乃 山根逸郎
病態研究領域 渡部真文 上垣隆一 グルゲ・キールティ・シリ
疾病対策部 勝田賢、企画管理部 秋庭正人

我々はJASVの先生方のご協力のもと、養豚場における抗菌薬使用及び薬剤耐性菌汚染の実態解明に取り組んできました。これまでの2年間に11農場で、のべ20回以上採材を行い、農場で使用される抗菌剤の消長や薬剤耐性菌の分布状況等の把握をしたところです。またそのうち2農場においては、テトラサイクリン系の抗菌剤の使用を中止していただき、その後の耐性率の変遷をモニタリングしています。これらによって、国が推奨する動物用抗菌性物質製剤の慎重使用のより実践的なあり方の検討に向けた知見を得ることを目標としています。昨年の本勉強会では、豚舎空气中由来のブドウ球菌を中心とした細菌の評価の一端をご紹介したところですが、今年はさらに、国が示す薬剤耐性対策アクションプランの養豚分野の指標菌である豚糞便由来の大腸菌、並びに環境リスクを評価する上で重要な指標となる豚舎（ないし養豚場）排水中の抗菌剤の検出状況及び大腸菌の薬剤耐性状況についても併せて紹介させていただきます。また、耐性獲得のための直接的な原因の一つである薬剤の使用量と耐性率との関連についても考察したので、その概要も紹介します。本発表をお聞きになり、ご自分のクライアント農場でも試験を実施したいという方がおられましたらご一報いただけると幸甚です。なお、本日紹介するすべての成果は、農林水産省による平成29年度戦略的プロジェクト研究推進事業「薬剤耐性問題に対応した家畜疾病防除技術の開発」（2017～2021年）によって得られたものです。

2. 養豚農場を対象としたベンチマーキングシステム（PigINFO シリーズ）の紹介

疫学情報専門役 山根逸郎

農研機構 動物衛生研究部門（動衛研）では、2011年より日本養豚開業獣医師協会（JASV）との共同研究を通して、養豚場の生産性や経営を評価するベンチマーキングシステム（PigINFO）を開発し運営を行ってきた。また農水省の受託研究プロジェクト「薬剤耐性問題に対応した家畜疾病防除技術の開発（2017-2021）」を通して、養豚農場における抗菌剤の使用量を評価するベンチマーキングシステム（PigINFO Bio）を開発中である。さらに農水省の経営体強化プロジェクト「食肉衛生検査データの豚慢性疾病対策への活用とベンチマーキングシステム（PigINFO）を利用した対策の経済評価（2018-2020）」を通して、食肉衛生検査データを養豚場の臨床現場に活用するシステム（PigINFO Health）を開発中である。今回、上記のシステムを紹介するとともに、近年のデータの特徴や今後の展望について情報提供を行う。

3. 国内の豚インフルエンザウイルスの現状

越境性疾病研究領域 内田裕子

2018年より農林水産省委託事業「家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発」にて、豚インフルエンザワクチン変更の為に、国内豚インフルエンザウイルスの状況把握をJASVと共に研究を行っている。共同研究にて得られた国内の豚インフルエンザウイルスの遺伝子及び抗原性解析結果を報告する。

4. 病気に強い養豚の実現を目指した研究への取り組み

ウイルス・疫学研究領域 宮崎綾子

昨年12月末のTPP11協定と今年2月の日欧EPAの発効により、低コストかつ高品質な豚肉生産を通じた国内養豚の経営体質強化が今まで以上に求められる中、生産性を大きく引き下げる慢性疾病対策は重要な課題である。

今春より、抗病性育種と免疫バイオティクスを活用した「病気に強い養豚」の実現を目指し、東北大学、農研機構 動物衛生研究部門、同・生物機能利用部門、岐阜県畜産研究所との共同研究（平成31年度イノベーション創出強化研究推進事業・基礎開発ステージ）がスタートした。基礎開発ステージにある現段階では、ボトルネックとなっている病原体感染増殖抑制機能の*in vitro*評価系構築に取り組んでゆくが、本研究の最終目標は、抗病性育種と免疫バイオティクスの活用により豚が本来持つ免疫機能を底上げし、感染症に罹患しにくい、あるいは感染症罹患後も症状を拗らせることなく回復できる養豚を普及させることにある。今回は、この共同研究の背景と概要についてご紹介したい。

☆お申し込みは FAX 又はメールで JASV 事務局までお願い致します☆

8月16日（金）必着

8月23日（金）豚病講習会

参加申込書

会員名.....

ご連絡先.....

該当欄に☑をお願いします。

| 日時 | | 用件 | 出席 | 欠席 |
|--------------|---------------|---------------|--------------------------|--------------------------|
| 8月23日 （金） | 13時00分～15時50分 | 豚病講習会（つくば動衛研） | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

ご連絡事項.....

.....

.....

[問い合わせ・申し込み先]

(一社) 日本養豚開業獣医師協会 (JASV) 事務局

電話 029-875-9090 FAX 029-307-8063

mail pig.jasv@r7.dion.ne.jp

ホームページ <http://e-jasv.com/>

返送先 日本養豚開業獣医師協会 (JASV)
FAX 029-307-8063